





行	三月	指
3	一日(月)体重測定 二日(火)お別れ遠足(鶴舞公園) 四日(木)PTA誕生会 六日(土)園児誕生会 九日(火)卒業式	〇集会の時の礼儀作法を正しくしましょう 〇鼻をかみましよう 〇うがいをしましょう

とくに生活指導の面で、家庭の協力を願うわけである。

一週は大體六項目にそつて、一日の主題を定める。

月曜日 「言語」生活発表などを通じて言語の習練をする。

火曜日 「絵画」いろいろな材料を与えてのびのびと描かせる。

水曜日 「音楽リズム」歌曲、リズム表現、器楽合奏などをさせる。

木曜日 「自然、社会」一週間交替にする。

ごっこ遊び、社会見学、自然観察、草花の手入れ、動物の飼育などをとする。

金曜日 「製作」いろいろの材料を使用して創意工夫して製作に当るようになさせる。

土曜日 「音楽リズム、絵画製作、言語、社会」

この項目に、三教室を区分して、それぞれ研究している先生方に、所属してもらい、プランを立てておいてもらう。全園児が自己の好むところに、所属して、作業をさせる。三組を解体して、保育をする。担任教師のみでなく、どの教師にも、親しみと信頼と尊敬の念を持たせるため、教師も全園児の名前をしつかり覚えて、どの子にも親しく接し、導くことのできるようになさせるために、実施している。

当園においては、戸外遊びを、とくに奨励している。自由遊び時間の幼児の戸外遊びは、いろいろな運動器具、遊具を使用して、活発に活動を展開できるように、配慮している。

「PTA、母の会」の運営

十五日を、毎月定例母の会として、保育参観をしてもらう。参観後三十分間位、園長が、教育内容六項目について、一項目ずつ説明し、当園ではどのようにしているか、ということ話を合う。そして、正しい幼稚園教育のあり方を理解してもらう。七割以上の出席率で、熱心に参観される。

毎学期一回、個人面接を行う。一人三十分間宛、懇談をする。家庭における幼児の生活態度を尋ねたり、幼稚園における態度を聞かせたりする。こうすることによって、幼稚園に親しみと、深い関心を持たせる。できるかぎり、正常な眼で、冷静に子どもを観察していただくように、努力している。

立案された教育の計画を、効果的に実践、徹底させるためには、どうしても、幼児と一番接触する時間の多い母親に、積極的に働きかけて、その人の理解と協力を得なければ駄目だ、と私は信じて、母親教育に重点を置いて、昭和三十一年度は、努力してみた。その一方法として、「PTA誕生会」というものを設けた。その様子を次に詳述する。

「PTA誕生会」

出席者 その月誕生日を迎える幼児と、その母親、教師。

日時 毎月二十日を定例日として開く。午後二時から三時半頃までです。

母親に招待状を出し、その月の誕生児の数により、パーズデーケ

キを注文して用意しておく。

円形に座を取り、親子並ぶ。だれの顔もよく見えるようにする。

談笑することのできるようなふんいきを作る。司会は教師が、当番で、順番にする。

1 お祝の歌を全員で歌う。

2 園長が、お祝いの挨拶を子どもと親にする。

3 談笑のうちに司会の教師の指名によって、一人ひとりの母親に、子どもの生まれたときの様子をこまかく話してもらおう。

幼稚園にはいるまでのいろいろなくせや、性向について話してもらおう。エピソードをまじえて。

「生れたときは九百奴もありましたので、なかなか生まれにくくて、難産でした。毎日人手もないので、誕生近くまで寝かせてばかりいましたので、足もおそく、ものもちつともいわないので、おしではないか、と心配しました。」

4 お話しが全部すむと、バースデーケーキを、テーブルに配置し、紅茶を入れ、先生がケーキを切ってお皿に取りわける。

5 ケーキや紅茶をいただきながら、幼稚園における子どもの生活態度のいい面を、強調して話し、子どもたちに成長の喜びを味わわせる。

6 子どもたちが、「大きくなってありがとう」の歌を合唱し散会。大体以上のような順序です。小人数の母親の集まりなので、ど

の方とも、楽な気持で、親しくよくお話ができるので、一人ひとりの母親の気質も、全職員にのみこめ、子どもの生い立ちもよく理解され、子どもたちも、ほんとうに、お誕生の喜びを心から味わうことができたようで、成功だったと思う。

教育の方法について少し述べてみる。

「一学期の保育形態」

一 斉保育的取り扱いを多く取り入れ、集団生活に早く馴れさせる。一、毎朝自由な形で、園庭に参集させ、幼児体操をする。

四月中は大体新入園児は見ているが、漸次その中に、導入されて、リズムに合せて、簡単な動作からするようになる。五月には揃ってできるようになる。(五分)

二、レコードに合せて、歩く、跳ぶことなどをして園庭を一周する。

(五分)リズムに馴れさせ、自然にリズムがとれるようになる。三、保育室にはいり、休息後、一定の保育活動にはいる。(二十分〜三十分)

自由遊びの時間を、充分にとらせるように、配慮している。自由遊びの時間には、集団的な遊びを、教師が仲間にはいり、中心になつて、誘導する。遊び方を知らせることと、友だち同志が、親しくなるように留意してする。「花一奴目。ロンドン橋、竹の子など」

「二学期の保育形態」

一、月木土 園庭に全員集合、幼児体操をする。

二、月 一週間のお約束をする。週間中の行事について説明する。

木 お約束が、よく守られているかよく反省させる。

土 一週間の反省をさせる。日曜日の爪切りの約束をさせる。

(三分五分)

三、火 金 登園した子から、各組ごとに、担任が、自由な保育活動に、誘導していく。

四、水 全園児が、登園したら、自由に、四つの保育室に分かれて、グループ活動をする。年長組と年少組が合流してする。音楽リズム

ム、絵画製作、言語、社会、自然の四項目に分れ、それぞれ教師が自己の研究課題を担当して、指導にあたる。園児が、どの組の教師にも、親しみと、尊敬の念をいだかせることと、どの組の子とも、仲良く、協力して、作業することのできるようにならせたいためにこの方法をとってみた。

五、土 遊戯室に全園児が、集合して、音楽リズムを中心とした遊びをさせる。

各保育室は、オルガンでしているため、ピアノにより、正しいリズムのとり方を、把握させる。集団で友だちのすることを、静かに、見たり、聞いたりする習慣形成を、大勢の友だちの前で、憶せずするという、積極性、社会性を培うために実施している。

「三学期の保育形態」

一、月 木 朝、集会して、体操させる。

正しく整列してする。大勢集ったときは、速かに、静かに並ぶという習慣を身につけさせる。

二、火 金 は二学期の形式に同じ。

三、水 土 遊戯室で、全員でリズム遊び、器楽遊び、劇遊びなどをする。

三学期は、一年生に進学する幼児が、全園児の三分の二を占めているので、小学校の学習形態を取り入れ、一定の時間(三十分位)部屋の中で作業するように、カリキュラムをくんでいる。大きな集団で、活動することもできるように考慮している。ごっこ遊びも、全員で、それぞれの持ち場を決めてする。

「学校との連絡提携」

全員、東山小学校という、連区の学校へ、入学するので、連絡に

は大変都合よく、密接にできます。

「進学座談会」

一年担任の先生に全員(八名)出席してもらい、進学する子の母親との懇談会を開いていろいろ話し合いをする。

1、幼稚園から来た子どもの特徴、長所、短所。

2、文字の問題、数の問題。どの程度に、教えておくか。

3、給食の問題。

4、用具の問題。 など

「一日入学」

就学する園児を全員小学校へ連れていき、一日、一年生の子どもといっしょに生活させてもらう。八組あるので、八つのグループに分けて、各教室の一年生のお友だちと、いっしょに絵をかいたり、歌をうたったり、本を読むのを聞いたり、紙芝居を見せてもらったりして、すごす。

校長先生から「四月みなさんのくるのを、みんな待っています」という、お言葉をきいて、もう一年生になったような、誇りと喜びを、かわいい顔にかけて、幼稚園に帰って来る。帰るとすぐ、グループに分れて学校、ごっこをして遊んでいる。算数の時間、国語の時間、図画の時間、音楽の時間、体操の時間などといって、楽しく遊びに再現する。

「入学期の幼児を持つ母親の心構えについて」

心理的立場から、専門家の先生にお願いしていろいろとお話を伺う講演会を持つ。そして、十分な心構えを作ってもらおう。

子どもたちが、四月から入学して、安定した気持ちで入学し、学習に励むことのできるよう、温く見守るようにしている。